



参加者一覧	02
連作欄 8首の連作 自由詠	03
テーマ詠欄 「短」	16
一首評 「そらよみ」	20
気軽にクロスワード	22
短歌でまちがいさがし	23
短歌リレーコラム 「望遠鏡」	24
リレーエッセイ 「いちごいちえ」	26
次回予告・編集後記	27

うたそら 第15号

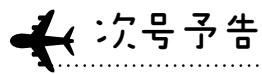
発行：2023.07.01

編集・制作：千原こはぎ  
@kohagi\_tw <http://kohagiuta.com/utasora/>

Twitter  
ハッシュタグ

## #うたそら

「うたそら」では Twitter で感想をお待ちしております。ハッシュタグ「#うたそら」をつけて、お読みになった感想をぜひお聞かせください。



第16号

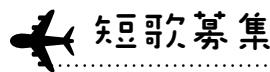
連作欄 8首の連作自由詠

テーマ詠欄 「月」

一首評「そらよみ」

短歌リレーコラム「望遠鏡」

リレーエッセイ「いちごいちえ」

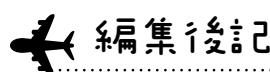


第16号 〆切 23 8/31(木) 24時

•8首の連作自由詠 •テーマ詠「月」1首

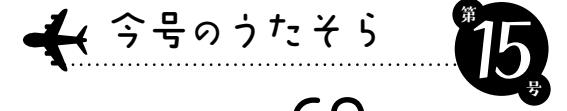
第17号 〆切 23 10/31(火) 24時

•8首の連作自由詠 •テーマ詠「茶」1首

投稿先等、詳しくはうたそらのご案内ページをご覧ください  
<http://kohagiuta.com/utasora/>

おひとじの間にすっかり梅雨に突入した今日  
はのむく、皆もあいかがお過ぎのでしょうか。  
今回の「うたそら」組んでみたといい2ペー  
ジ足りない...といふことが判明し、急遽、3  
回目となるまわかっせかしと、初の試みであ  
るクロスワードのペーパーを作成しました。  
クロスワードは「今日中に作つて!」といふ無茶振りに応えて実父  
が数時間で制作してくれました。父  
よほんとうにありがとうございました...。父  
かお楽しみいただきますように...!  
次号は9月発行です。テーマ詠の  
お題は「月」。たくさんのお書きな  
作品を、お待ちしておつまむ。

編集鳥 千原りさか



参加歌人様 69名

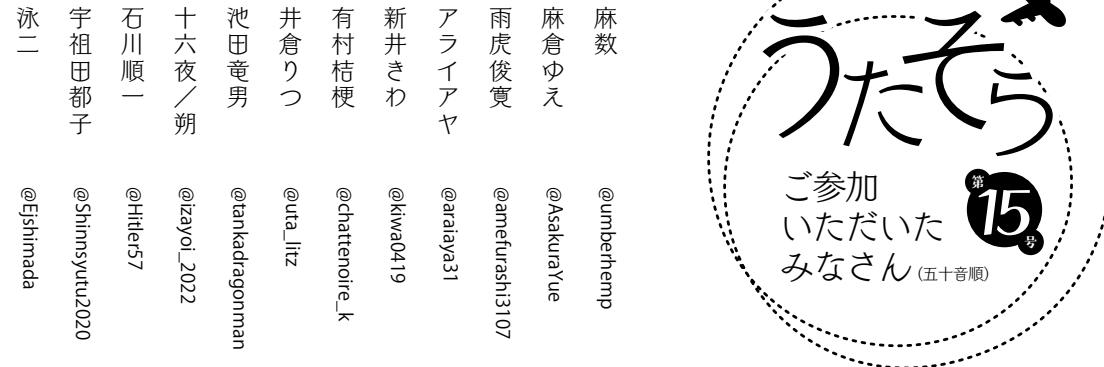
連作欄 50名  
テーマ詠欄 53名  
一首評 6名

ご寄稿いただき  
ありがとうございました!

コラム 脇龍さん  
エッセイ カラスノさん



illustration: kohagi chihara



hs	@hswelt	打だんす	@zunda_dansu	御糸ねり	@NEATsachi
遠藤 // サキ	@qe_no1	たえなかす	@suzusuzu2009	深影口上	@cotoha_mikage
大坪命樹	@OtsubouMeiju				
大橋春人	@hachidx2	ねねふわせんた	@subjperf	南宇実	
雨虎俊實	@anefurashi13107	千原りさか	@kohagi_tw	多橋子	
アライアヤ	@araiaya31	ツメヒロ	@shakufur	水や	
新井さわ	@kiwa0419	北谷雪	@moyoko_bungaku	ねねふわせんた	@m_iya_o
有村桔梗	@chattenoire_k	君村類	@shakufur	堂那灼風	@57577_77575
井倉つ	@uta_litz	銀嶺	@moyoko_bungaku	こめヌタ夏	@croissant_hev_z
池田竜男	@tankadragonman	十六夜／朔	@takuro2016	永井駿	虫武一俊
西澤	@izayoi_2022	汐射ハルカ	@kyokousalad	中村成志	@musouatsushi
西澤	@xizhen_ivUT	鹿ヶ谷街庵	@shioiri_haruka	河岸景都	@muccij2022
西澤	@jicksbeans2	雀來豆	@lkasamabakuchi	涸れ井戸	
西澤	@yohana_no_sekai	白石夜花	@haruki_nb	がね	
宇祖田都子	@Shinsyutu2020	白藤あめ	@moonusagijenshi	涸れ井戸	
泳一	@Eishimada	寿司村マイク	@haruki_nb	歌島孟	
		まわせた	@nakam8	河岸景都	
			@kate_kawagishi	北谷雪	
			@kitaya_misomiso	君村類	
			@kmmr_r09	銀嶺	
			@kuankochan555	十六夜／朔	
			@kuankochan555	汐射ハルカ	
			@takuro2016	鹿ヶ谷街庵	
			@kyokousalad	雀來豆	
			@shioiri_haruka	白石夜花	
			@haruki_nb	白藤あめ	
			@moonusagijenshi	寿司村マイク	
			@haruki_nb	まわせた	
			@nakam8		

69名 計

たへやんのうぶな  
あつかじゅうじゆう



15

リレーエッセイ

# いちばんちえ

前号の人の短歌から一語を摘んで  
それをテーマにエッセイを書くページ  
今号のテーマと書き手さんは…

未完

テーマ  
カラスノ

# 連作欄 8首の連作 自由詠 #うたそら



つい最近気づいたことだが、私は何かを完了することが苦手だ。「面白い小説を読み終えてしまったのが惜しい」というような感情はよく聞く。ようと思うが、もつと原初的な反応として、何かを完了することが難しい。無理やりにそれを行おうとするときには凄まじい気力が要求されるようなのだ。

これに気づいたのは、先日、出張の航空券の予約をするときのことだった。行き先は決まっており、乗り換え検索によって乗るべき便も決めた。航空会社のサイトにログインして、該当便を検索、空席をクリック。「次へ」ボタンをよ

どみなく押し、搭乗者情報の入力も手際よく終り、手荷物の注意事項もチェックして、そのあと、——最後の「予約を確定する」ボタンが、どうしても押せない。あー、もしキャンセルしたらどうなるんだっけ、と取消し手数料の規定ページを見たりする。また、戻る。予約を確定し、早く座席指定に進まなければいけない。が、最後のボタンは押せない。

結局、そのページはいつたん寝かせて、別の仕事に没頭する。奮起して「確定」ボタンを押せたのは、退勤間際のことだった（当然タイムアウトしており、最初からやり直すことになつた）。

なぜ最後のボタンがすぐに押せないのでだろう。うんざりしながら、あ、私これよくやっているな、と気づく。ZOZOTOWN のカートには無数の商品が入れっぱなしだし、靴のヒラキのサイトでは0.5cm刻みの上靴が大量に未購入となつてゐる。一番反省しているのは、「○日あいてたら飲みに行こう」系の約束を保留してしまうこと。○日が遠い未来であればあるほど、そんな先の自分の行動と考えを確定することが怖い、とい

う気持ちになる。一方で、自分の外部の世界に對しては、さつさと確定していることを強く望んでしまう。「この商品が8月までに再入荷するかどうかはわかりません」では困るのだ。自分とはなんとも勝手な人間だ。

ちなみに、こんな私がストレスなく買い物できる唯一のサイトが、「コープデリ（生協）」である。次回お届け分の注文〆切になると、自動的にカート内の商品の注文が確定される仕組みになつていて。〆切までにやるべきことは「カートに欲しいものを放り込んでおくこと」だけ、つまり主体的に「注文確定」ボタンを押す必要がない。流れくる時間というものが、勝手に確定ボタンを押してくれるのだ。なんてすばらしいシステム！まるで強制スクロール面で圧死するマリオのようである。

そんなわけで、私は一週間前に書き始めたはずのこのエッセイを終えることができず、〆切直前にやむをえず送信している。未來の自分の可能性を狭めたくないかった、などとありふれた言い訳を並べながら…。

## 圧死するマリオでずっとわらいたい 時間のことはわすれてもいい

カラスノ



ラムネのなかへ

雨虎俊實

スタートティンググリップ握り僕たちは合わせてバックスタートに入る『take your marks』（電子音）着水し見上げる水面ちりちりはぜる澄んだ水 細かな気泡 ぐんぐんと黄色のタッチ板が遠のくそら色のスイムキャップを横目にしケイツクターンのちラムネのなかへ水を掴み水を離す 5mフラッグ通過あと二搔きかなんとなく水搔きのある手のひらで押しした第4コースの黄色ただ空を見上げていられる背泳ぎが好きだつたんだ 照明白くアメリカンドッグ頬張る夕立のきみの髪からプールの匂い

Foods

新井きわ

鳥の声をCDで聴くよな街に棲み冷蔵庫に卵だけはある  
思い切り林檎を齧つてありありと歯型で識別されるわたしだ  
綿飴は舐めなくつても縮んでく 私の遺伝子は誰も繼がない  
何処までも生きてることに放縱で猫はカナカナの声まで食べる  
冷蔵庫一丁目にある茹で卵のしづかな死が祝われている  
人ひとり殺めてしまう勢いでハーゲンダッツにフォーケを立てる  
我が一生に伏線のあるらしつくつとたまに芽を出す若荷くれない  
星明かりさみしい夢を見過ぎだかポケットの中でフリスクの鳴る

離れてるあなたと月をはんぶんこ 満たされたくない部分があつて  
足りないものだらけのふたりは確かめない 確かめないまま星を数えて

花火、夜景、星野リゾート この人は会えない夜のことばかり言つ  
きつとこない「いつか」の話 雪の夜の窓のむこうのぼやけた灯り

排気ガスに揺れるピンクのキヨウチクトウ 命ごと消したくなる朝だ

飛ぶためのとどめの合図が欲しいのに車に轢かれたカラス、待つてよ  
治すための薬 吊るためのロープ 登るための靴 片道きつぶ

いつのまに青がこんなに濃くなつて、夏じやんこんなの、ひどい、まぶしい

くたくたのときだけ行ける売れ残りの馬二頭引く山にいるんだ

## くたくた

池田竜男

屋上猿部15

宇祖田都子

夜は蒸すちょっと待つてと妻がいうこれは山口百恵の待つて  
ちやぶ台をいつも返せる口と住むやさしい鮫だそれがせいぜい  
通らない声でよかつた鶴でさえ指示に尽くせぬことにじませて  
張る肩を張る肩が選ぶのかもしれず従つて揉む力は確か  
蝙蝠もこのようにして飛ぶのだろう前にも後ろにも家族がいて  
雨ニモマケズ風ニモマケズ聞いている天井裏のしづかな梁が  
背を伝う指が何本かは分からぬ原野をでくのぼうがうろつく  
くたくたのときだけ行ける売れ残りの馬二頭引く山にいるんだ

ボール紙細工の蟻がひつそりと器械体操する複葉機  
ジーツという極彩色のレンズ豆中に無数の計器の光る  
半ズボン白い靴下骨格がハニカムならば鳥に似ている  
銀輪に拘束された六月の夜の正体は万有引力

お月さま点いたり消えたりおこりんぼでこぼこ三角穴から見える  
じゅらるみんふろペラボイーるらじえーたーぺだるじおらまかつたーないふ

消えていく存在こそがセスナ機のげらげら笑う翼の中身  
贋物の猿が都会をよぎるから吐息も涙も董色かよ

性欲のあをあをして両の手に塩のキユウリを転  
がしてゐる  
／太田宣子 2021年8月13日『キユウリ』  
あひたくてあへば疲るひとつて夜にはあかく  
ひらく睡蓮／太田宣子 2020年3月13日『疲  
ら・ふらんすらうらふらんすこの瘤のあたりが巴  
里でけふはあひびき／同 2020年9月2日『梨』  
露草を漬し昏さの残りゐる指紋 無罪は無実と違  
ふ／同 2019年9月6日『実』  
パンツ履く種として僕らやしさもさびしさも白  
曼珠沙華おまへも自分がきらひだらう その赤は  
火でも血でもないのだ  
／同 2014年9月22日『自分』  
艶っぽく、果実のねつとりした食感が口に広がつて  
いく。三首目は幼い頃に履いていた人も多いであろう  
ゲンゼのパンツ。保護者が肌触りの良いものを  
選んでくれていたものの、成長と共に自分で下着  
なつてしまふゲンゼ。そのゲンゼへのノスタルジー  
が巧みに表現されている。

意外な言葉に想像が膨らんでしまう歌もある。  
くりかへす墾田永年私財法 点滴の今日のリズム  
／太田宣子 2021年6月8日『永』  
湯豆腐をひとりに食うたといふ母の眼鏡のくもり  
を思ふ寒暁／太田宣子 2020年11月27日『寒』  
死にゆける父のひたひを撫ぜ母の可愛いとばそり  
どこまでも花野／同 2019年8月19日『可愛い』  
集めても／同 2019年3月24日『可愛い』  
鳥が鳥のこゑできみがきみのこゑで 歌へる世界  
でありますやうに／太田宣子 2018年8月10日『自由詠』

題が『永』でも墾田永年私財法を使う人は少ない  
だろう。主体か家族が点滴を受けている場面で、落ち  
るリズムに墾田永年私財法を合わせている。何度も  
点滴を受けるような状況の暗さと唐突な墾田永年  
私財法のすこーんと抜けている感じが相まって、泣  
きたくなるような一首になつていて。

くたくたのときだけ行ける売れ残りの馬二頭引く山にいるんだ

# 七望遠鏡\*

15



と告ぐる花の夜

2014年4月18日『賭け』

思想よりかはいい服が似合ふ国

やがては終はる

もちろん平和の標語にもならず、主体の日々に恐怖

を落とし込んでいた。もう一首、紹介したい。

パレードだつた

2015年6月23日『パレード』

怖いほど痛いほど好き わたくしの嗚咽をあなた

贊歌のひと聞け

／太田宣子

覚悟を持っている主体たちだが、太田さんは決し

てスーザーマンにはしていない。強いばかりでも弱

いばかりでもない市井の人として、歌の中に生きて

いる。

短歌にまつわるあれこれについて  
自由さままに書くページ  
今号のテーマと書き手さんは…

遠花火わたしの奥にも戦争が立つてゐるから抱き

しめないで

／同 2021年2月24日『奥』

タンクレストイレの家に住む人の毎日変はる口紅

の色／太田宣子 2021年11月26日『タンク』

川それは川幅に在りわたくしはわたくしの幅に生

くるほかなし／同 2021年6月24日『幅』

でかい家でかい車にでかい犬僕らは失ふために欲

しがる／同 2020年7月23日『でかい』

格差という言葉が浮かんでくる三首。特に一首目

のタンクレストイレは絶妙で、タンクのない便器は

タングルのあるものより少なくとも5万円以上は高く

なる(TOTOのカタログ調べ)。5万円高い選択

ができる家庭でなければ、口紅を毎日変えることは

できないだろう。人間の欲望には果てのない虚しさ

があると気づかされる三首目や、すっと立ち上がる

ことができるような一首目の強さも心に残る。

タンクレストイレのように共感と想像を得やすい

モチーフの使い方も、太田さんの歌の特徴だろう。

うたの日の同じ部屋でこの歌を読んだときの衝撃

は忘れない。ショックが大きくて評も票も何も

入れることができなかつたし、頭では考えていたの

に歌にすることからは逃げた自分を恥じた。太田さ

んの歌は遠い過去のことを歌っているのではなく、

世界のすべての鳥たちへ

## ボニーとクライド

泳二

世界のすべての鳥たちへ

大橋春人

ぼろぼろと旅するように紫陽花は咲くぼろぼろと旅するなんて  
読んでない手紙でできた山がある今度ふたりで登ろうねって  
雨粒に踊る葉っぱを見る赤い傘の下 ボニーとクライド  
掌の上の掌 動脈は暗渠 明日は燃えるゴミの日

最近の天気予報は当たるから今夜わたしも雨と降りたい  
やさしさの形の背中見送つて期待通りに裏切られてる  
届かない硝子の厚さ六月の小さな声は窓に染みこむ  
ほんとうは並べたい言葉もなくて今日も季節がひとつ終わつた

## 悲運の折り紙

大坪命樹

曾根崎心中するワタシ

歌島孟

荷を積みてあとは明日いづるのみ 夕食摂れるに妻に寒氣の  
薬飲むも体温下がらざる妻とともに不眠にて明くる朝なり  
土曜なれど病院さがして診せにいづ コロナならずば上京せんとぞ  
わがねがひ虚しくコロナ陽性なり 二人ぞ自宅にてすぐすべき  
感染を我も聞すれど陰性なり 莫迦はコロナにも罹らざるか  
しかおもひ妻と親しくすぐしをるにコロナに罹るまことが莫迦なり  
上京し都を楽しむのちならずまへに罹るは非運の折り紙  
盛況が文学フリマに出でられざる いかなる馬の塞翁なるべき

何故、こんなことになつたのだろうかと、思いあぐねて鐘の音が鳴る  
天仰ぐあなたの顔の輪郭が涙のあとで光つてみえる  
足枷とするには軽い夜の露と世を振り捨てて歩む道行き  
目に入る色が輝きだす、全て、世界が最後みたく思えて  
「あれは何?」ついに捕り手が来たんだと見れば稻妻光る水滴  
「たましいさ、僕ら一人の」いつまでも消えぬ炎と焦がれていたい  
光明の朝は来なくていい、幕を降ろそう僕は、僕の闇路へ。  
ふるえてる思いは顔に出さないで、さあ、はやくつて、笑つて言おう。

引っ越すと決めた

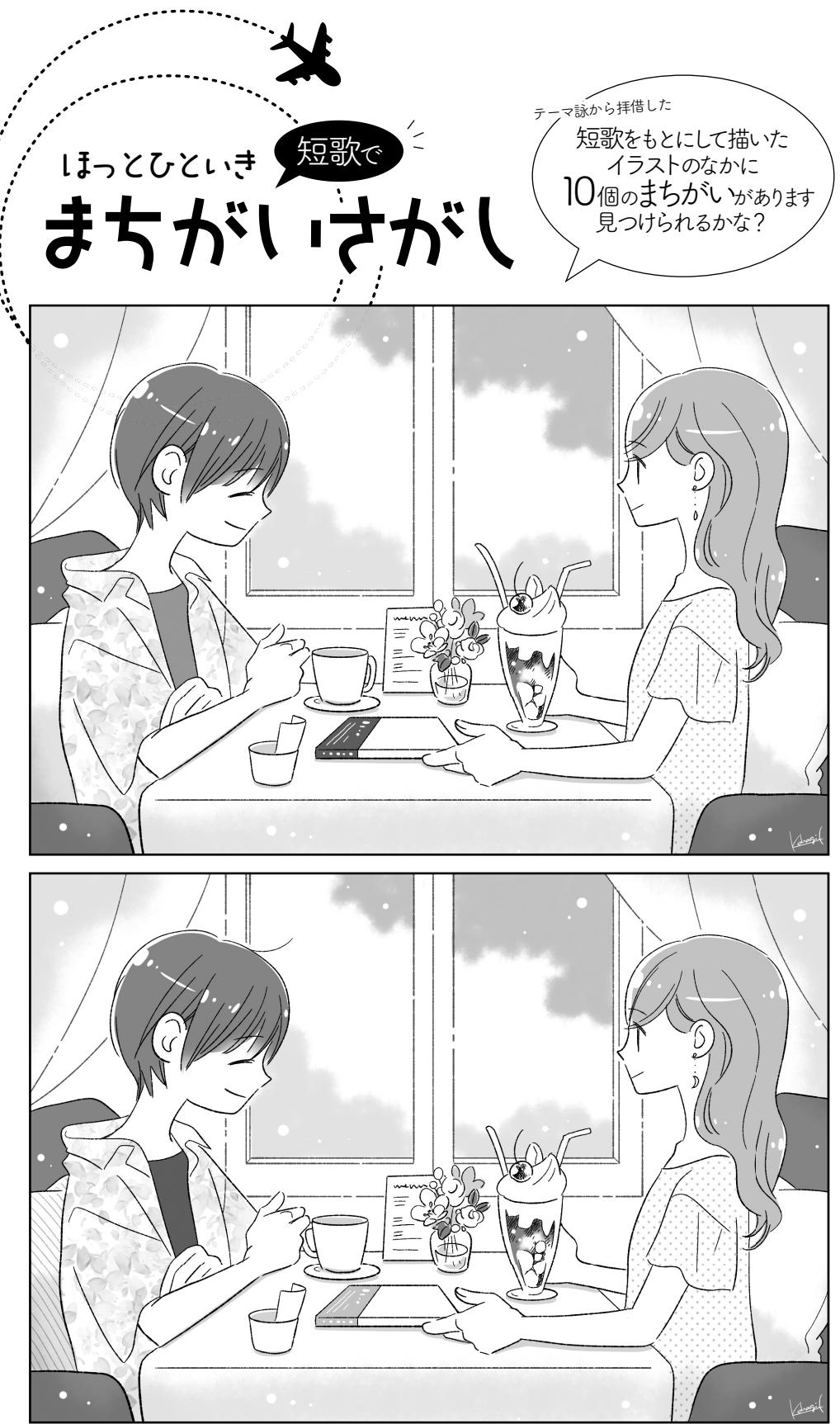
がね

紫の花の香り

河岸景都

引っ越すと決めた途端にこの町のすべてが愛しい ような気もする  
次の家、次の家すぐに現れる 婚活もこんな感じでしょうか？  
もうずっと悲しんでいる気がしてる 部屋には一人分の痕跡

ダンボール箱に収めた生活が出てくるまでも生活がある  
光あれ 私が買った電球が部屋に光をもたらしていく  
コーヒーを淹れて一息つくわたし イメージだから綺麗に立つてある  
必要なものだけ次へ持っていく もしくは残せなかつたものを  
前の街からこの街へきた風が私を街へ押し広げていく



まちがいさがし

深影コトハ

tanka

犬街で会う

涸れ井戸

森のひとびと

北谷雪

徳島のうつかりさんが来阪し初夏の週末犬街で会う  
リアルでは初対面の目八さん三人で俳句のはなしする  
犬街は粋な本屋で人生の相談できるスペースもある  
ラクさんに転職の悩みを伝えメンクリを勧められしんみり  
店長とうつかりさんと目八さん、自分がずらずら歩く庄内  
眠眠のきんきん声のおばちゃんが商店街の歴史を語る  
性別もSNSじや曖昧で羊の肉は良く焼けている

阪急の低いホームでお別れをしてすぐにツイッターを起こす

カンヴァスは未開の王国 空想が求愛のように羽を広げる  
パーカーから枝葉の繁る森の匂い絵の具まみれの美大生ゆく  
美術室は完璧だった あまり1、みたいな椅子と先生がいて  
夕暮れの陸上部員を見下ろして絵筆を握ったままに手を振る  
絵の中を“向こう”と呼んだ門番のように額縁専門店の主人は  
コンクリートジャングルの葉陰にひつそりと王の広間へ続くギャラリー  
学芸員は人差し指をくちびるへ（轟る鳥を撃ち落とすごと）

ままならない大人になれたら描けそうで画廊の一角予約しておく

小人らが住まう森へと分け入つて澄んだ硝子の囁きを聴く  
紫の小さな花が集まつて見せるダンスはいつも同じで  
変わりゆく最高気温 二つ目のソフトクリーム飽きずに食べる  
遠ざかる景色の中に探すのはあの日落としたドライフラワー  
降る前の雨の匂いが分かるまま大人になれたことが嬉しい  
見上げれば走る電線 青空は望まないまま区切られてゆく  
あの山を超えてゆくバス捕まえて花束だけをそつと乗せたい  
帰りたい バスルームには紫の花の香りが満ち満ちている

寝転んでしまいたいとき寝転んでしまえるように空白がある  
待つていた荷物が届きお楽しみ前の細かい説明書の字  
繰り返し聴いても歌は変わらずにわたしは古くなっていくけど  
くしゃくしゃに丸めて強く投げてみて特技の欄はずつと空白  
保護色にだまされやすいわたしには森はいつも平和に見える  
いいほうの角度に顔をかたむけて写る気持ちを応援したい  
地球ごと空へと放り上げられてこれから落ちるところじゃないか  
街灯があるから黒くない猫が黒くないまま歩いていった

応援したい

くうだたけし

さかな

汐射ハルカ

新緑のみどりを揺らす一迅の風には白いジャックパーセル  
初夏を過ぎてかぎろう戯れに冬の果実の香水ひとつ  
遠くまで鏡のような水面はめずらしいんだ砂を蹴つて  
うす曇る空をさかなは泳いで北も南も解らぬ今まで  
曇天のまだ夏前の熱放射よなに脱いだ靴下が無い  
曖昧で期限の切れぬ不確かな約束ばかり交わしていくね  
みしみしと傷んだ躰もて余し投げ出すきみもぼくも墮ちゆく  
肉体を包みかねないぼくだけ対峙している羞じと境目

calling  
君村類  
カクヨムコンテストに出でなかつたもの  
サラダビートル

あてた耳へしづかなひかりを寄せてくるスマートフォンのほうが清らか  
こんなにも声を梢にさせていくあなたへと降る長い長い雨  
どこまでも寄せては返す波として繰り返される大丈夫、大丈夫  
できるだけ人肌のまま触れたくて声に加えて首もうなづく  
「役に立つ」の「役」の役目の答えらしい速さで氷が水へと戻る  
飲み干した氷の透明さでうまれだからこそヒトは争つて死ぬ  
細く細く換気のために開けている窓の幅からやつてくる救い  
calling あなたの上へ梅雨が持つ晴れ間のような言葉をかざす

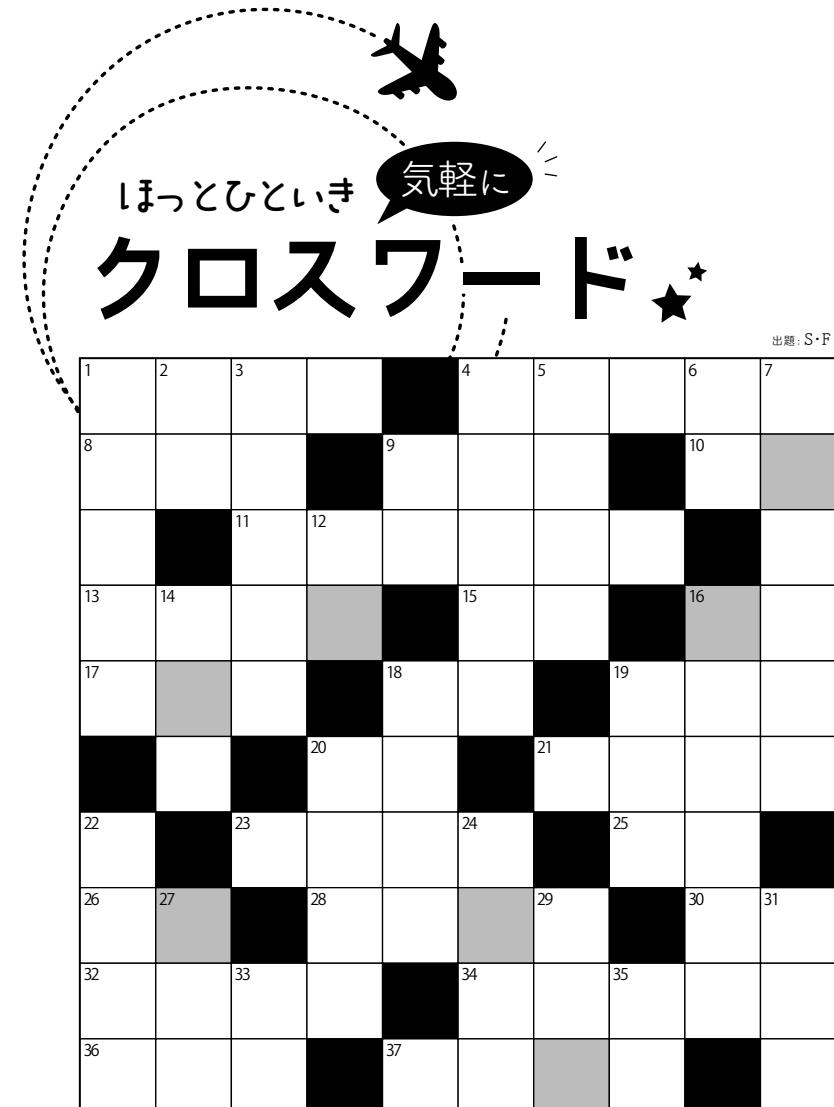
calling

君村類

カクヨムコンテストに出でなかつたもの

サラダビートル

犬が死ぬ映画を教えてくれるんだこつちは事故物件がわかるよ  
“何でもいい”が許されているご家庭で今日も飛び交う “何でもいい”が  
マリトツオが流行ったハンドスピナーも流行ったどっちも触つたことない  
しようもないボケをしたから引くそれがたとえ難病の人であつても  
タピオカを食べることなく死ぬのかなそこで出てくるのがタピオカか  
トイレを借りる感覚でイートインでキムチを食べて帰つてくれ客  
「サラダスピナーがハンドスピナーくらい流行つた世界で起きそなこと」  
日本一大きいジェットより短い飛行機に乗る 短さが良い



## ヨコのかぎ★

- 花言葉は「冷淡、移り気」
- ひとつくらいは持ちたいけど…
- 日本の数学。
- 浪士。討ち入りといえば。
- 腐つても\_\_\_。
- 大阪にある水族館。
- いつも庶民に…(ToT)
- 益の対語。
- 敵に\_\_\_を贈る。
- 使えたらしいなあ…
- 安くなっています。
- 桐製は高級品。
- 豪華な花といえば。
- プラタナス。街路樹に。
- 四国の巡礼地。神社。
- \_\_\_科。切ったりはしません。
- 「とても」の古語。
- 虫。名松も無残に。
- 和歌をテーマとした野外博物館「古今伝授の里」がある県は?
- 紙やゴム製。息を吹き入れます。
- 部屋の上を見上げれば
- 夏の夜は、浴衣のお供に欠かせない。
- 汁。野菜たっぷりの精進料理。

## タテのかぎ★

- 須磨の関守はここから通ってきた千鳥の声に目覚めさせられました。
- ボケないように。
- 初夏の山に咲く植物。雨にぬれると花弁がガラスのように透明になる。
- 大理石などの岩石。
- 真言宗の宗祖。高野山。
- 一枚歯、二枚歯、千両、舟形、高…
- 彦根藩主。桜田門外の変で暗殺。
- 友釣りや、琵琶湖湖産が有名。
- 在原業平がモデルと言われている\_\_\_物語。
- 日本式で作られた書籍。
- 深い海の底にいます。奇形の個性派が多い。
- 「君のため空白なりし手帳にも予定を入れぬ書きで」俵万智
- 乗馬のハンドル?
- NHKで放映中。
- これから次々やってきます。
- 東北の球団。
- 普通の順序とは逆にする表現法。\_\_\_法。
- イギリスなどの長さの単位。
- 料理は素材の味を壊さないように。
- かけっ放しです。
- 工藤新一に薬を飲ませた黒づくめの男は?

こたえ

色付きマスの文字を並べ替えてことばを作つてね



## 勝手に食べる

鹿ヶ谷街庵

五月、その他の短歌

雀來豆

一番は太宰治で一致して二番を当て合う雨の図書室  
鉛筆で描く自画像の真っ黒に塗りつぶされた目にあるひかり

今日もまた告白できずに自転車で『リンダリンダ』を死ぬほど叫ぶ  
透明な独楽が激しく心臓でまわり続ける片恋の日々  
君に似たひとを見かけて追いかける君じゃなかつたけど追いかける  
何度でも叱られたくて何度でも君のプリンを勝手に食べる  
手をつなぐ僕らを月が照らすから夜の散歩は祝祭になる  
ガーベラが弾いた水の一滴に君が映つて消えてく、またね

## 青林檎

西鎮

突然に会おうと言つてきた友と似た顔をして五月がそよぐ  
相方を失つてから靴下は鳥の殻のようにつめたい  
お前ほど器用じやなくて、と言い兄は奥歯で薄荷飴を碎いた  
座礁したザトウクジラを深海へ誘うようにひかる漁り火  
さあ、跳べとささやくような眼で鳩は向かいのホームから翔びたつた  
六月のきみにならつた幾重にもライム色差すアナベルの名も  
ひとよりも何かを掴めていない手にナイフを握り剥く青林檎  
お互いに風だつたんだ太陽を探してきみは部屋を出てゆく

春の森で木の実を拾う冬眠のあいだに熊が見ていた夢を  
側溝の蓋から覗く露草の青が光つて五月を告げる  
しろたえの泰山木のあかるさに満ちて夜禽は声たてており  
きみは易々とテキストに転換する何も食べずに生きていられる馬の話を  
真夏日は夏だけじやない音もなく発火するソノシートの朱色  
エコロジストの音声ガイドが語りだす人が樹木に変わる話を  
永遠に食べ放題のイチゴ狩り(Strawberry Fields Forever)おそらくNOでおそらくYES

## 白藤あめ

たいうな鬱たち

おくすりはそんなたくさんんじやだめ ラムネあげるよ一緒にいるよ  
ハンバーガーショップで夜を明かそうよ 普段食べないやつを頼んで  
しあわせはわたしたちは似合わない 街灯が消えるのを見ていた  
昼だって寂しい気持ちは消えないね このまま世界終わらないかな  
人生の最後に食べるメニューにさ 手料理なんかあるはずないじやん  
お酒とか薬で救われるほどのフェーズはどうに過ぎてしまつた  
十四のときにきいたボカラ曲とかにいまだに救われちゃつてる  
人間は星の数ほどいるけれど星は灯りであまり見えない

冷凍庫にパルム絵本を二冊読み吾子が  
眠つてくれればパルム  
ともえ夕夏

一首評

10個のまちがいは  
見つけられましたか？  
前号のまちがいさがしの答えはこちら！

西淳子

一首評



前号のまちがいさがし 答えあわせ

ほっこりといき 短歌で

# まちがいさがし 答えあわせ

10個のまちがいは見つけられましたか？

前号のまちがいさがしの答えはこちら！

パルム食いてえ！「パルム」が二回出でくることで  
楽しみにしている様子が伝わってきました。「パルム」と  
具体的に書いてあるのも良いなあ。ちょっと贅沢  
なご褒美のイメージがあるので内容と合っている気  
がします。大人っぽいイメージもあるので「絵本」  
や「吾子」と対比になつているような……商品名  
の由来を調べたらイタリア語で「手のひら」を意味  
する「パルマ」から名付けた造語とのこと。やわら  
かくてあたたかくて好きです。

Illustration: 千原こはぎ @kohagi\_tw



辞書の背を右手で受けて身体にもまばたきという外函がある  
暴力はあかるい きみが日輪と言えばきこえてしまう風鈴

他人の金で購う他人の誕生日ケーキこうしてまで生きるのだからさつき挨拶した先生とすれば違うときの会釀のようになる雨

お持ち歩きの時間を訊かれ腐るのはケーキであつてわたしではないかなしみを唇で探し当てながら机間巡視の顔をしたんだ

居心地の悪い愛には勝てないと蛇腹ファイルをぐわっと聞くたまにきみの机になつた 空論がわたしを少しだけ猫背にした

晴天が四日続いた朝祖母は静かに龍の許へ帰りぬ  
村中が賤家に集う誰そ彼やみんなきちんとした服を着て  
おさな児は今日も片手に萩を持ち亡きクラミツハに手向けておりぬ  
この山のすべてが先祖だと言つた祖母の遺灰は谷川へ還す  
困つたわ雨が降りそっぽつかりと村の抱える心の穴に

晴れ渡る空とはなしをするようにたまに体を起こして祖母は庭先にすづめとともに遊び来る萩を手折りて届けるおさな

村のために祈り続けた祖母 しろき幣も装束もずしりと重く

## 堂那灼風

## 引つ掛けやすい

中村成志

氣味悪い骨が見つかる現地語で「封印」という名を持つ露頭  
海底から押し上げられて古代魚は摩耗しつくまで風を切る

弱かつたわけではないのはよくわかるとうに子孫も途絶えたあぎと  
展示室を進んでゆくとレプリカに混じつてたまに置かれる死骸

丁寧に復元しても本当は地中の姿しか知りえない

四億年前の化石は白亜紀の足下にもう固まつていた

ワンシーン夢に出てくる甲冑魚ごめん人喰いザメに重ねて

四億年離れた地層に一匹が取り残される文明のあと

目覚めればたまごを握る形してゆるく丸まる右の手のひら  
四つ折りのハンドタオルじゃ間に合わない季節が来るね（来たよ）雷光  
鳩尾に拳うごめく心地なる雨期の光の呻きが窓を  
能面へ手をかざすとき稻妻の静かに満ちてそののち薄暮  
道へ出でまずはコンビニへと向かう背に病院のどこまで白亜  
丸かじり櫛切り湯剥きぐずぐずのトマトの赤を体内へと吸う  
さあ君を連れて港へはつ夏の鎖骨は指を引っ掛けやすい  
早すぎる夏の陽射しに紫陽花の色が脱がされてゆく浜辺前

## 古代魚

堂那灼風

引つ掛けやすい

中村成志

またすぐに顔を見たくて短めの物語ばかり貸し出している

100円の缶コーヒーを掌てのひらが包む短歌よ、あつためてくれ

◆ 南字実

◆ 水也

◆ 深影コトハ

◆ 宮岡りょう

◆ 虫武一俊

◆ 村田一広

◆ 森内詩紋

◆ 杜野詩季

◆ 茂呂直人

◆ 朧

◆ 渡邊光子

「あつ」 静寂。短い叫び。皆止まる。3秒経つて平常運転。  
眠れなさと待つことは違う短夜の熱を小指の先まで吸つて  
短きに長きが混じる兩脚にぼんやりやりすごす梅雨休み  
短夜、と口にだすたび翔べぬまま我が胸に朽ちる黒い揚羽みじかよが  
短夜の傍らにおく歌集には旅で求めた切り絵の栞

この人に会うのはちょっと先だからチーズケーキは棚に戻した

◆ 渡邊光子

野良犬の中へゆくもう二回シヨートホープを吸ひこんでから

◆ 朧

あなたの名、短い歌や詩なのよね。人からもらつた「生きろ」のかたまり

# 「短」

テーマ詠

食パンに挟んであれば食べられるかもしないなきみの短所も

◆ ともえ夕夏

短針の欠けた時計を巻く腕の漂流していたのは大人たち

◆ 永井駿

鳩尾を押さえたまんま七月の夜のながさを布団に嘆く

◆ 中村成志

産声が「ショートコント！」でそれからはまあそれなりにたのしく生きる

◆ 西淳子

短パンがあればとうぜん長パンもあつてそこには一掴みの理り

◆ 西村曜

寝静まる街の背中を撫でていく雨音さみしい嬰ト短調

◆ 薄荷。

3回半手を振りあつた永遠と花が散る度甦る君

◆ Haruki

面白い映画も特に短いと思ったことはなくて 日曜

◆ 久久力ナ

雨だねと短く言ひて梅雨といふ季節に溶くる黒き目のひと

◆ 福山桃歌

はかないな夢にまで見た古本のそれも千切れた中の紐とは

◆ 真岡まな

短めに終わつた恋ほど思い出の隙間に居場所を見つけてしまう

◆ 笹地静恵

切りすぎた前髪隠すかんかん帽似合わないのがまたまた泣けて

◆ 廣珍堂

口あけばタイパタイパと言う部下が未だ返さぬ飲みの出欠

◆ まさけ

わたしたちしあわせだよねそうでないことも短歌にしてしまえるし

◆ 御糸さち

## 夏を愛した

奈瑠太

## 食パン袋

西村曜

ラメ糸はチラリチラリと光るから視界の端ではしゃぐみたいに流れ込む涙、乗つ取られたくない 天気雨からニライふるえるいつのまにか痛みを避けて鈍らせてとおくとおくへカナイ目を伏すさよならと向き合うことを怖がつて均したこころに立たない墓標無のことば 光りの岬となる南わたしたち生きながら見つめるだからいま悲しみが流れ込むのなら二倍のなみだ流せばいいか下限の月もいづれまた満ち満ちてゆく枯れた胸にも世界樹のこえもういいや君の悲しみに染まろう防波堤などこころにはない

## 狂人鳥（きんぐペング gon）

西淳子

## 雨傘の街

薄荷。

ペングインを七羽集めて合体させて狂人鳥を作りたいんですよ

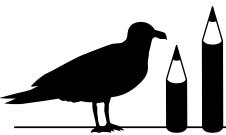
Tシャツの英字を誤せば、「レター・パックでペングイン送れ」はすべて詐欺です。

ペングインに帝京平成大学の凄さを教えるファミリーマート

「はじめまして松尾です」にも真っ白なペングインがいて、二ワトリじやなく、ちょっと待てい！ちょっと待てい！が鳴きしきるペングインだけのVTR エンジエルの素敵な堕天 ペングインのモノマネします！とか言いながらペングインにも寿命があると知った日の「きんは百歳、ぎんも百歳」 チヤリで来た。北極に来た。ペングインに会うため三千年かけて来た。

確実なことが欲しくてコンビニの林檎デニッシュの正しい甘さ黒鍵を選んで音を鳴らすように水たまりふたつ飛び越えていく新品のビニール傘を目標にアレグロで降る初夏の雨だれ青信号で動くビニール傘の海を遙いクロールですり抜けていくサモワールの湯気しゅうしゅうと歌いだしロシアンカフェの華やかな午後地下鉄の順番を待つ行列の先頭に立つて少し楽しい

置き去りにされた誰かの雨傘を乗せたまんまで走る地下鉄 勝つことも得意じやなくて人波に紛れてしまえるこの街が好き



決められた一人のときのお茶の間の並ぶ枕の向きやりモコン  
かすてらのザラザラ紙を剥がしていく恋した理由そこにあるから  
鳥たちがリンゴかじつて誘いきて風の動きに合わせて飛んだ  
風になる屋根の隙間の梅雨星にチュンチュンチュンと文字を紡いだ  
遠くなる足音と柔らかな水もういくよっていえる十五夜  
今自分のこころ十年後へ届ける華を嗅いでは猫舌なりて  
あの窓は鍵を掛けずこのままに羽を休める君へ差し出す  
お砂糖を火で炊くように引力でギュッと固めて宇宙を旅する

空を見る、海を見る  
久久力ナ

個人情報朗詠  
笛地 静恵

出勤の汗は背骨で膨らみぬ靴と傘で拘束され  
恵なる水を湛へてみると聞く重き雲ただ禿頭を撫づ  
よく冷えし蜜柑に結露する朝は君のうなじに汗を知るかも  
ワイヤーがほどよく水を弾いたらふたりで夏の助走にはいる  
はらはらと早苗をたたく今日の雨微分積分ばらばらとなる  
雷鳴も暗さも来よと空を見る大事な傘の骨は折れつつ  
コンクリを打てばまたたく雨となり養生シートを脇に抱ぶる  
蛞蝓が流しのキャベツに登るころ今夜は回鍋肉と決めたり

惑星の上限として見る空は厚み五百キロほどの天井  
この星を出れば宇宙でキリがない上を見たつて下を見たつて  
見るだけで触れないことを選びつつ海と空との違いを思う  
水族館で過ごしたのちに夕暮れの海を故郷のように見つめる  
もし空に魚が棲んでいたならば夜景の上にきらめく鱗  
難しいことを考えてもいいが今はこの三日月を見ている  
そこにあることならわかる夜の海みたいに察するきみの寂しさ  
天気予報を天気は知らずきみよりも自分の涙がわからなかつた

こうとしか生きられなかつたみじめさを道のカラスへあやまつてゐる  
ふるさとの訛りなつかし旧友と五十年目の同窓会で  
どうしたのなんか五月の近すぎて優しいものが肘を推してゐる  
ずぶぬれのラガービールを飲み干せり未来へ走る者みな疲れ  
少年を愛し続けた帝王は西の夷狄に墓を暴かれ  
ころころと国道ころがれ観覧車この町あの町恋を恋して  
地球の海に最初に生まれた単細胞生物の子孫なんだ 僕  
ショッカーのひとりだけどよ俺だつてなりたかつたさ仮面ライダー

入眠が短くなつて懐かしき夢のボロ長屋に戻れない  
昔から寄り道ばかりしていたね、最短距離を選べない人  
きのうより短い真昼間この夏に母の背丈を追い越すだろう  
鉛筆を補助軸に挿して使いきる気持ちで起きる金曜の朝  
真夜中の静けさ求め歩けどもすぐに小鳥が囀る時刻に  
人修羅を1ターンで倒す動画は時間が潰せないから見ない  
咳をしてもヒツコリー、と書く。短詩つてウイルスみたいに身体をめぐる  
晩白柚にも似た短夜の月を背負い孤独について話した  
たぶんわたしはやつていけるしA-Iでたぶん短歌は書けると思う  
夏の短夜に燃えゆく恋情が線香花火のように燃る  
笛の葉に「帶馬券」というデカい文字 パチンコ屋にも七夕は来る  
えんぴつは短くなるほど捨てられずクッキー缶で余生を過ごす  
六月は短く髪を切りました 悲恋の病ですから、以上。

◆ 千原こはぎ  
◆ 白藤あめ  
◆ 豆打だんす  
◆ たえなかすず

# 「短」

短めの恋と言うけど初めての恋だつたので僕には永く

◆ 麻倉ゆえ

短命に終わる望みを諦めて人生百年時代の覚悟

◆ 雨虎俊實

短めに切れた鎖が揺れていて忘れた頃に止まるのだろう

◆ アライアヤ

きみといる夜は短い金曜の二十八時にかける音楽

◆ 有村桔梗

一編をのこして眠る雨の夜あとがきのない短編集を

◆ 池田竜男

ドラムにはなれない達磨コーポーを飼うやつみんなくたばれと歌う

◆ 十六夜／朔

梅雨間に迷いし君は何処にか短夜明けて杜若ひとつ

◆ 石川順一

短髪を魅力的だと思う時批判的な人間を排除して居る

◆ 宇祖田都子

トラウマと言いたくはないつけまつ毛短すぎれば舐めたい目玉

◆ 泳二

来年の僕は笑つてゐるでしよう今よりずっと短い髪で

◆ 五

貰味期限切れの食品携えて短い命を走つていつてる

◆ おおむらけんた

あんなにも長かつた夜いつの間に朝になつてた君と話せて

◆ 遠藤ミサキ

短刀を翻して六月の花嫁だけが幸せになつた

◆ 歌島孟

短夜を駆けていきたい、薄命の兆しが空に見えたとしても

## 三角形の底辺にいる

福山桃歌

ちぎり絵

御糸さち

夜深いところでそつと繋がつてこのまま愛さなくていいから  
はつなつの風が素肌を撫でていく馴れ馴れしさで近づけたなら  
振り向かない向日葵だから太陽の方ばかり見て こっち向いてよ  
ありふれたハッピーエンドは毒だつて知つてゐんならこの手を取つて  
紫煙 どうしようもないから誤魔化して笑えば困つてくれるんだろう  
浅ましくどこぞの神に祈るたび白い素肌はいつそう甘く  
狂わなきややれない恋は一日中降り続いてる雨の煩さ  
愛してよ 三角形の底辺で落ちてくるのを待つてゐるからさ

γひμνύօ

まさけ

蒼い

深影コトハ

なぜ人は衣をまとい生きるのかアリストテレスに訊ねてみたい  
俺もその昔全裸を極めたと兄が持ち出す2歳の写真

銭湯で己を布でひた隠す兄に心底失望をする

カント以前カント以後と定義して全裸はどこにあたるのだろう

メロス的無意識全裸あれこそが全裸の最高峰であること

ハウレーカ！ハウレーカ！と胸中で叫ぶ露天の月が綺麗だ

創世の人も全裸で受けた風 目を閉じ仰ぐ壁扇風機  
形而上学的全裸わたくしは我を晒して明日も生きる

放課後の闇に青光る生き物のなかで私が一番きれい  
答案を裏返したら先生へ読めないくらいに薄く、恋文  
ブラウスは透けてはいけない心臓に隠した星座が光りだすから  
幻獣を育てに行こうよ、一次性徵終わつた人から制服脱いで  
大人しかできないことをする代わり髪を結わえてまた解かれで  
萎れてるふりして息を潜めてる夏の雷雨の真ん中に君  
神の子じやなくなつてから炭酸を飲むようになつた 肺を汚して  
夢から醒めた夢から醒めた夢だから青い余韻を持て余している

ゆめよ、ゆめ よいこでいますパパとママたからものまで追いやらないで

鏡にはうつらないものまぶたには銀色のラメ落としてくだけ  
クッキーを焼いているのよあまいからあまいんだから知っているでしょ

星屑が降り注いでいるのまち透明な板越しに見てている  
眠りなさいベッドの上だけならば生きてていいよわらつているよ  
祈る手で数字をつくる何枚の価値があるんだ蝶は羽ばたく

キラキラの色をつけてく跡形もなくなつていたさいごのわたし  
夢を見ているのほんとうなんてない言葉もないよ溺れてしまう

遺言

深山睦美

寂しい遊園地

村田一広

遺言の『歯あ食いしばれ』は無効です だからゆつくり口をひらいて  
夢色のでつかい馬糞撒き散らし竹下通りを往くユニコーン  
ガシャポンから出でてきた蟹は死んでいた：まだ生きている蟹を救おう！  
くるみ割り人形みたいな咳をして列に加わる暫壙の中  
踏切のバーに頭を殴られて小田急線と交わすくちづけ  
幽霊の正体見たり地縛霊まだこの国は終わつちやいねえ！  
天国とは大きく出たなホコ天の命すべてに垂る蜘蛛の糸  
ガラス製のチエスに触つた空き巣から順に感染した五月病

明日は曇り25℃

森内詩紋

刻

ササササと風に切られる雨の音 雷は、だが、ただ光のみ  
窓からの景色はたちまち輪郭を無くし、ぼやける 間ごと融ける  
エアコンもきかぬ重さよ我ひとり厨に喰らう生海苔茶漬け  
不意に哭く犬？犬？いいえ大丈夫あれはテレビドラマの銃声  
冷や汁を濃厚なまま啜りこむ刻んだキユウリほどの自意識  
これほどの強さならもう散るだろう義祖母の墓の裏の花桐  
ガドルフの百合ならぬ董カーテンのかげより見やる これも、また、恋  
予報では明日は曇り 25℃ 会いたい、君に 理由つけずに

渴きも出来合い

杜野詩季

黒トリュフ

和田晴美

睡眠が薄くて永久に明け方の光のなかを彷徨つてゐる  
たづね犬のポスター見上げ賞金はないのかと失望するたづね犬  
入口で待たされてゐた遊園地はひどくたいくつ寒かつたつて  
途中からあなたの雨にかはつて頭から寂しさを浴びてゐる  
絹糸が古かつたかな縫つてゐるそばからふちぶちぶち切れる  
風に舞ふレジ袋たちあはきつとレジ袋の国へ向かつてる  
本当に心疲れたあなただけ乗せてあげます回送列車  
晴れたなら 晴れたら？ ずぶずぶに濡れそばつ街をまるごと預かつたまま

朧

取れたボタンそのままにして着るものがあるのに無いよ忙しいから  
買い置きを確かめないで店に行き増殖させた豆板醤など

この日差し想定外でシーツなど洗つて干して、ができないでいる  
ルンバちゃん黙々動く恋愛は興味がないと言わんばかりに

デリバリーできないそんな店はない、からのスーパー出来合いのピザ  
話す時間もつた妹へ連絡事項を画像で送る  
Sサイズ卵のような青あざをいつどこで得たかわからぬ太もも  
心情が沁みない言葉引きずっと砂漠を歩くそんな渴きだ

訊くたびに生まれ故郷を変えてくる女の顔は教祖のようで  
月々の支払額はたましいがゆるす範囲でお選びください  
スタジオでアイドルたちがはしゃいでて死者数告げるニュース速報  
平和賞を創設しようよビカピカの いつとうしようにはえんぴつあげる  
「午後のひとときいかがお過ごしでしょうか」と海を隔てたラジオ局から  
タネも仕掛けもありませんので手品師は死体の前で立ち尽くして  
サイレンがサイレンがサイレンがまた消えていく夜 ぼくたちはまだ  
だれひとりかなしいひとをのせないでハッピーENDの終電はする

遺言

深山睦美

寂しい遊園地

村田一広

育つとは遠くまで行くという事のその先が見えなくなるとしても

嘘というよりつい盛つてしまふのだわかるけど少しだけ砂を噛む  
白トリュフは黒トリュフの十倍すると(削られているのは黒トリュフ)  
ひらひらと黒トリュフの薄片が降る焼き込みご飯まず香りたつ  
結論は食感と香りこれがかの黒トリュフかと頷きながら

ではなくて、ふたりの行く末を祈る初顔合わせ滞りなく  
二人連れ三組が向かうそれぞれの帰路に名駅今日は迷わず